

平成 30 年度
精神保健に関する技術研修課程

【WEB による申込受付の研修】

国立研究開発法人
国立精神・神経医療研究センター
精神保健研究所

〒187-8553 東京都小平市小川東町4-1-1
電話 042 (341) 2711 (代表)

精神保健研究所ホームページ 研修情報案内
(<http://www.ncnp.go.jp/nimh/kenshu/index.html>)

< 目 次 >

WEBによる申込受付の各研修課程要項

第 1 回災害時 PFA と心理対応研修	1
第 55 回精神保健指導課程研修<前期>	3
第 16 回摂食障害治療研修	5
第 1 回精神障害者地域包括支援研修	6
第 16 回多職種における包括型アウトリーチ研修	7
第 6 回医療における個別就労支援研修	8
第 2 回地域におけるリスクアセスメント研修	9
第 32 回薬物依存臨床医師研修・第 20 回薬物依存臨床看護等研修	10
第 55 回精神保健指導課程研修<後期>	11
第 15 回摂食障害看護研修	13
第10回認知行動療法の手法を活用した薬物依存症に対する集団療法研修	14
第 2 回災害時 PFA と心理対応研修	16

第1回 災害時 PFA と心理対応研修

1. 目的

本研修は、WHO 等の国際機関が開発した「サイコロジカル・ファーストエイド（心理的応急処理：PFA）」に従って、自然災害等の大規模災害時にトラウマに対するこころのケアに対応できる人材を育成するために実施されます。

第一日目には PFA の実技研修を行います。20-30 名程度（予定）のグループに分かれ、ロールプレイ、コミュニケーションスキル訓練、シナリオに基づいた討論などを織り交ぜて、実際の対応能力の向上を目的とします。また、第二日目には、悲嘆、子どもの反応についての理解と対応に関する講義を行うとともに、不安症状を軽減するためのスキルについてもスキル研修を行います。

PFA は災害だけではなく、犯罪被害、事故などのトラウマ被害者に対しても実施できる、汎用性の高いスキルです。この機会を積極的に活用され、災害に備えるとともに日々の臨床にお役に立てて頂ければ幸いです。関係者の皆様の積極的なご参加をお願い申し上げます。

2. 対象者

自然災害、甚大事故、犯罪、テロ等のトラウマ的出来事に際して、実際に被災者、被害者へのこころのケア対応にあたる可能性のある、精神保健医療福祉業務に従事する医師、看護師、保健師、精神保健福祉士、臨床心理技術者、行政職員、教育関係者等。

3. 研修期間

平成 30 年 5 月 23 日（水）から平成 30 年 5 月 24 日（木）まで

※第 2 回災害時 PFA と心理対応研修は、

平成 30 年 11 月 28 日（水）から平成 30 年 11 月 29 日（木）までです。

研修内容はいずれも同一です。

4. 研修主題

「サイコロジカル・ファーストエイド（心理的応急処理：PFA）」に関する基本技能を習得する。また悲嘆、子どもの反応について理解し、不安軽減のためのスキルを習得する。

5. 課程内容	(時間)
PFA の定義と枠組み	(2.0)
PFA の活動原則	(1.5)
PFA ロールプレイ	(1.5)
セルフケアとチームのケア	(1.0)
トラウマと悲嘆反応	(1.0)
子どもの反応	(1.0)
心理教育	(1.5)
リラクゼーション	(1.5)
総合討論	(1.0)
合計	12 時間

6. 定 員

50 名 (応募者多数の場合は選考)

7. 申込方法・期間

WEB (推薦書の送付が必要です)

平成 30 年 3 月 15 日 (木) ～ 4 月 4 日 (水)

8. 受 講 料

12,000 円

9. 会 場

国立精神・神経医療研究センター 教育研修棟多目的室または研究所 3 号館セミナールーム

第 55 回 精神保健指導課程研修 《前期》

精神疾患に関する医療計画・障害福祉計画・介護保険事業計画の
実効性を持ったモニタリングと今後の包括的な策定のために

1. 目 的

平成 30 年度からの精神疾患に関する医療計画・障害福祉計画において、実効性を持ったモニタリングができるようになることで、今後の介護保険事業計画も含めた包括的な策定に資するような知識と技術を習得するため。

2. 対 象 者

- ・都道府県で精神疾患の医療計画・障害福祉計画・介護保険事業計画を企画立案する担当部署職員
- ・政令市、中核市、精神保健福祉センター、保健所等で、同様の職務を行う職員

3. 研修期間

平成 30 年 7 月 2 日 (月)

※後期は平成 30 年 9 月 7 日 (金) です。

前期、後期は一連のシリーズですが、片方みの参加も可

4. 研修主題

- 前期：・新精神保健福祉資料の見方と使い方を中心に地域における課題と施策の立て方を習得する
- ・平成 30 年度の 630 調査の留意点

後期：地域における課題と施策のモニタリングを通して、計画見直しおよび次期策定のために必要なことについて習得する

- ★ 受講決定者は各回前に事前課題の提出をお願いします (受講決定時に詳細をお伝えします)
- 研修主題に関する Q&A の時間も設けます。

5. 課程内容

前期	(時間)
新精神保健福祉資料の見方と使い方	(2.0)
NDB(ナショナルデータベース)について	(1.0)
平成 30 年度の 630 調査の留意点	(1.0)
地域における課題と施策の立て方	(2.0)
小計	6 時間
後期	
新精神保健福祉資料の見方と使い方	(1.0)
地域における課題と施策のモニタリング	(3.0)
計画見直しおよび次期策定のために必要なこと	(2.0)
小計	6 時間
合計	12 時間

6. 定 員

100 名（応募者多数の場合は選考）

7. 申込方法・期間

WEB

平成 30 年 4 月 26 日（木）～ 5 月 16 日（水）

8. 受 講 料

無 料

9. 会 場

国立精神・神経医療研究センター 教育研修棟ユニバーサルホール

第 16 回 摂食障害治療研修

1. 目的

摂食障害の治療に必要な専門的な知識及び技術の修得を目的とする。このことにより摂食障害の治療者の養成を目指す。

2. 対象者

- 病院、保健所、精神保健福祉センター等に勤務し、摂食障害に関心を有する医療従事者
- ・精神科、心療内科、一般内科、小児科で臨床に従事している医師
 - ・臨床心理業務等に従事する者

3. 研修期間

平成 30 年 8 月 28 日（火）から平成 30 年 8 月 31 日（金）まで

4. 研修主題

摂食障害の病態と治療に関する最新の知見

5. 課程内容	(時間)
摂食障害の疫学・病態・治療概論	(1.5)
心理教育	(1.5)
セルフヘルプ	(1.5)
家族への対応	(1.5)
認知行動療法	(3.0)
身体合併症・身体的管理	(3.0)
精神障害・パーソナリティ障害を合併する摂食障害	(1.5)
アルコール依存と摂食障害	(1.5)
小児の摂食障害	(1.5)
入院治療	(1.5)
慢性期・回復期・リハビリテーション	(3.0)
症例検討	(1.5)
総合討論	(1.5)
合計	24 時間

6. 定員 50 名（応募者多数の場合は選考）

7. 申込方法・期間

WEB（推薦書の送付が必要です）

平成 30 年 6 月 20 日（水）～ 7 月 10 日（火）

8. 受講料 24,000 円

9. 会場 国立精神・神経医療研究センター 研究所 3 号館セミナールーム

第1回 精神障害者地域包括支援研修

1. 目的

精神障害者支援を、より一層入院医療中心から地域生活中心へと進めるためには、行政、医療、障害福祉、介護等がネットワークを構築し、本人中心のサービスを包括的に提供する必要がある。本研修は、地域において様々なニーズを抱える精神障害者に、必要な支援へのアクセス、ニーズに応じた包括的支援等を提供するための、評価及び支援スキルの向上を目的とする。

2. 対象者

精神保健福祉センター、保健所、市町村等において、精神保健に関する直接支援、企画立案等に携わっている者（保健医療福祉資格の有無は問わない）又は精神科医療機関、障害福祉サービス事業所等に勤務する者。

3. 研修期間

平成30年8月27日（月）から平成30年8月28日（火）まで

4. 研修主題

精神障害にも対応した地域包括ケアへの理解を深め、グループワークを通じて精神保健領域におけるアウトリーチ、措置入院者の退院後支援、ケアマネジメント等について学び、地域で活用できるようにする。

5. 課程内容

	(時間)
精神障害にも対応した地域包括ケア概論	(0.5)
精神障害者支援に関する協議の場について	(1.5)
措置入院者の退院後支援について	(3.0)
触法精神障害者の処遇について	(1.0)
精神保健におけるリカバリーについて	(1.0)
ニーズアセスメント（演習）	(2.0)
自治体によるアウトリーチ（概論、グループワーク）	(3.0)
合計	12時間

6. 定員

60名（応募者多数の場合は選考）

7. 申込方法・期間

WEB 平成30年6月21日（木）～ 7月11日（水）

8. 受講料

12,000円

9. 会場

国立精神・神経医療研究センター 教育研修棟ユニバーサルホール

第16回多職種による包括型アウトリーチ研修

※初日は第6回医療における個別就労支援研修と合同開催

1. 目的

中等度～重症精神障害者の退院促進・再発予防・地域生活支援を目指した医療支援、障害福祉サービスを含む、多職種による包括型のアウトリーチ支援を我が国に普及・定着させるため、地域における実践に必要な支援理念や課題の理解、技術の修得を目的とする。

2. 対象者

精神科医療機関、障害者総合支援法における障害福祉サービス事業者等に勤務する者（医師、精神保健福祉士、臨床心理業務に従事する者、保健師、看護師、作業療法士、社会福祉士等）。訪問支援経験者、もしくはこれから訪問支援を開始する予定の者が望ましい。

3. 研修期間

平成30年8月29日（水）から平成30年8月31日（金）まで

4. 研修主題

医療支援および障害福祉サービスを含むアウトリーチ支援定着のためのプログラム

5. 課程内容

《共通課程》	(時間)
精神保健医療福祉施策の概要	(1.0)
地域精神保健サービスにおける倫理的課題	(1.0)
リカバリーを促進する支援のあり方について(1)	(1.0)
当事者から見たリカバリーとは	(1.0)
リカバリーを促進する支援のあり方について(2)	(2.0)
《本課程専門》	
アウトリーチおよびケアマネジメント総論	(1.0)
ストレングスマodel/ケアプラン作成の実際（概論・事例検討）	(2.0)
ストレングスマodel/ケアプラン作成の実際（グループワーク）	(3.0)
パネルディスカッション：支援体制構築について	(2.0)
日本のアウトリーチ支援の現状、今後の課題	(2.0)
訪問におけるリスクマネジメント	(1.0)
グループワーク・まとめ	(1.0)
合計	18時間

6. 定員 40名（応募者多数の場合は選考）

7. 申込方法・期間 WEB 平成30年6月21日（木）～ 7月11日（水）

8. 受講料 18,000円

9. 会場 国立精神・神経医療研究センター 教育研修棟ユニバーサルホール

第6回 医療における個別就労支援研修

※初日は第16回多職種による包括型アウトリーチ研修と合同開催

1. 目的

入院中心の医療を地域生活中心の医療に転換するためには、「症状緩和のための医療」を「その人の生活の充実に役に立つ医療」に転換していく必要がある。このためには、「働きたい」精神障害者が実際に就職できるような支援を、医療機関が積極的に関与しながら展開することが重要である。本研修は科学的に効果が実証された個別型援助付雇用の就労支援のあり方や、I P S (individual Placement and Support) の哲学を医療機関に普及することを目的としている。

2. 対象者

精神科医療機関で臨床に従事しており、利用者の就労支援に関心を持つ者（医師、看護師、作業療法士、精神保健福祉士など）、および医療機関と密接な関係をもちながら精神障害者の**個別就労支援に既に従事している者（集団プログラム等のみの支援は除く）**。

3. 研修期間

平成30年8月29日（水）から平成30年8月31日（金）まで

4. 研修主題

精神科デイケア等における個別支援と事業所外支援を中心とした個別型援助付雇用の就労支援を学び、そこから医療機関が周囲の就労支援機関と組む場合のありかたについて検討する。

5. 課程内容

	《共通課程》	(時間)
精神保健医療福祉施策の概要		(1.0)
地域精神保健サービスにおける倫理的課題		(1.0)
リカバリーを促進する支援のあり方について(1)		(1.0)
当事者から見たリカバリーとは		(1.0)
リカバリーを促進する支援のあり方について(2)		(2.0)
	《本課程専門》	
精神障害者就労支援：制度と現状		(1.0)
医療における就労支援		(2.5)
精神障害者を雇用するにあたっての企業側の考え方		(1.0)
個別職場定着とサポート（I P S）の基本的な考え方と実践のありかた		(1.5)
I P Sを基本とした就労支援のありかた		(1.5)
パネルディスカッション：就労支援専門員の役割と多機関連携		(1.5)
当事者サイドの声、家族の声		(1.0)
グループワーク		(2.0)
	合計	18時間

6. 定員 20名（応募者多数の場合は選考）

7. 申込方法・期間 WEB 平成30年6月21日（木）～ 7月11日（水）

8. 受講料 18,000円

9. 会場 国立精神・神経医療研究センター 教育研修棟多目的室

第2回 地域におけるリスクアセスメント研修 (旧名称：地域精神科モデル医療研修プレセミナー)

1. 目的

中等度～重症精神障害者の地域生活を支えるためのサービスを提供するにあたっては、リスクアセスメントに基づく支援計画を立て、必要に応じて適切な危機介入を行うことが望まれる。その際には本人のリスクのみを評価するのではなく、同時にストレングスに着目すると同時に、本人の自律性や価値観を尊重することが重要である。本研修では、包括型アウトリーチや個別就労支援を行うにあたって知っておきたいリスクアセスメントについて学び、日常臨床に生かせるようになることを目的とする。

2. 対象者

精神科医療機関、精神保健福祉センター、保健所、市町村、地域援助事業者等に勤務する者（医師、精神保健福祉士、臨床心理業務に従事する者、保健師、看護師、作業療法士、社会福祉士、精神保健福祉相談員等）。

3. 研修期間

平成30年9月1日（土）

4. 研修主題

精神科地域支援におけるリスクアセスメント。

リスクアセスメントの歴史と、基本的な考え方について学習する。地域支援を実施するにあたって簡便に使用でき、支援計画作成時にも役立つリスクアセスメントツールの実際の評価方法について演習を通して学び、臨床現場で活用できるようにする。

5. 課程内容

	(時間)
リスクアセスメント概論	(2.0)
リスクアセスメントの項目について	(1.0)
リスクアセスメント演習	(2.5)
リスクアセスメントの活用について	(1.0)
合計	6.5 時間

6. 定員

40 名（応募者多数の場合は選考）

7. 申込方法・期間

WEB 平成30年6月21日（木）～ 7月11日（水）

8. 受講料

6,000 円

9. 会場

国立精神・神経医療研究センター 研究所3号館セミナールーム

第 32 回 薬物依存臨床医師研修

第 20 回 薬物依存臨床看護等研修

1. 目 的

国内外の薬物乱用・依存をめぐる情勢を考慮すると、我が国の精神医療、精神保健の中での薬物依存問題はますます重要性を増していると考えられる。そのため、薬物依存に関心を持つ医師、看護師等を対象に、薬物依存の概念・現状理解、基礎知識、臨床的対応法にわたる研修を行い、薬物依存の診断、治療及び予防にかかわる医療関係者を増やすことを目的とする。

2. 対 象 者

精神科病院、精神保健福祉センター等に勤務する医師、看護師等

3. 研修期間

平成 30 年 9 月 4 日（火）から平成 30 年 9 月 7 日（金）まで

4. 研修主題

薬物依存症概念の理解と薬物依存症に対する臨床的対応の普及

5. 課程内容

	(時間)
薬物依存に関する基礎知識と現状把握	(1.5)
薬物依存の形成機序（精神依存・身体依存）	(1.5)
覚せい剤精神疾患の生物学的機序	(1.5)
覚せい剤依存・精神病の臨床	(1.5)
ベンゾジアゼピン系薬物の基礎と臨床	(1.5)
大麻の薬理作用及び行動毒性	(1.5)
女性薬物依存症者の臨床的特徴	(1.5)
青少年における薬物乱用の特徴と乱用防止のあり方	(1.5)
医療施設における薬物依存の治療	(3.0)
精神保健福祉センターにおける取り組み	(1.5)
全国の民間リハビリ施設の現状と課題	(1.5)
回復者による自助グループ活動	(1.5)
薬物依存者家族の支援について	(1.5)
合計	21.0 時間

6. 定 員

医師 20 名、看護師等 30 名（応募者多数の場合は選考）

7. 申込方法・期間 WEB 平成 30 年 6 月 28 日（木）～ 7 月 18 日（水）

8. 受講料 24,000 円

9. 会場 国立精神・神経医療研究センター 研究所 3 号館セミナールーム

第 55 回 精神保健指導課程研修 《後期》

精神疾患に関する医療計画・障害福祉計画・介護保険事業計画の
実効性を持ったモニタリングと今後の包括的な策定のために

1. 目 的

平成 30 年度からの精神疾患に関する医療計画・障害福祉計画において、実効性を持ったモニタリングができるようになることで、今後の介護保険事業計画も含めた包括的な策定に資するような知識と技術を習得するため。

2. 対 象 者

- ・都道府県で精神疾患の医療計画・障害福祉計画・介護保険事業計画を企画立案する担当部署職員
- ・政令市、中核市、精神保健福祉センター、保健所等で、同様の職務を行う職員

3. 研修期間

平成 30 年 9 月 7 日 (金)

※前期は平成 30 年 7 月 2 日 (月) です。

前期、後期は一連のシリーズですが、片方のみの参加も可

4. 研修主題

前期：・新精神保健福祉資料の見方と使い方を中心に地域における課題と施策の立て方を習得する
・平成 30 年度の 630 調査の留意点

後期：地域における課題と施策のモニタリングを通して、計画見直しおよび次期策定のために必要なことについて習得する

★ 受講決定者は各回前に事前課題の提出をお願いします (受講決定時に詳細をお伝えします)
研修主題に関する Q&A の時間も設けます。

5. 課程内容

前期	(時間)
新精神保健福祉資料の見方と使い方	(2.0)
NDB(ナショナルデータベース)について	(1.0)
平成 30 年度の 630 調査の留意点	(1.0)
地域における課題と施策の立て方	(2.0)
小計	6 時間
後期	
新精神保健福祉資料の見方と使い方	(1.0)
地域における課題と施策のモニタリング	(3.0)
計画見直しおよび次期策定のために必要なこと	(2.0)
小計	6 時間
合計	12 時間

6. 定 員

100 名（応募者多数の場合は選考）

7. 申込方法・期間

WEB

平成 30 年 6 月 29 日（金）～ 7 月 19 日（木）

8. 受 講 料

無 料

9. 会 場

国立精神・神経医療研究センター 教育研修棟ユニバーサルホール

第 15 回 摂食障害看護研修

1. 目的

摂食障害に関する専門的な知識及び技術を習得することにより、摂食障害のチーム医療、医療連携、患者・家族の支援に貢献できる看護師および保健師、作業療法士、精神保健福祉士、栄養士等を養成する。

2. 対象者

精神科、心療内科、小児科、精神保健福祉センター等に勤務する看護師および保健師、作業療法士、精神保健福祉士、栄養士等

3. 研修期間

平成 30 年 10 月 31 日（水）から平成 30 年 11 月 2 日（金）まで

4. 研修主題

摂食障害の病態と治療に関する最新の知見

5. 課程内容

	(時間)
摂食障害の疫学・病態・治療概論	(1.5)
コミュニケーションのスキル	(1.5)
摂食障害治療の基本	(1.5)
摂食障害の身体的合併症の管理	(1.5)
摂食障害、パーソナリティ障害を合併する摂食障害	(1.5)
精神科病棟における看護	(1.5)
心療内科・内科病棟における看護	(1.0)
小児の摂食障害と小児科病棟における看護	(2.0)
慢性期・回復期・リハビリテーション	(2.0)
栄養リハビリテーション	(2.0)
ソーシャルワーカーの役割	(1.0)
総括討論	(1.0)
合計	18 時間

6. 定員 50 名（応募者多数の場合は選考）

7. 申込方法・期間

WEB（推薦書の送付が必要です）

平成 30 年 8 月 23 日（木）～ 9 月 12 日（水）

8. 受講料 18,000 円

9. 会場 国立精神・神経医療研究センター 研究所 3 号館セミナールーム

第 10 回 認知行動療法の手法を活用した 薬物依存症に対する集団療法研修

本研修は、平成 28 年度より新設された「依存症集団療法」の施設基準に定められている研修会です。なお、診療などのやむを得ない理由で最終日ご受講できない場合でも、「依存症に対する集団療法に係る研修」の要件を満たすため修了証書を発行します。最終日ご受講できない場合は、WEB 申し込みの際に「特別連絡欄」にて予めその旨お知らせください。

1. 目的

薬物依存症者に対する積極的な援助ができるようになるとともに、Matrix Model を参考にした包括的外来薬物依存症治療プログラムを実施するための基礎を身につけるとともに、薬物再乱用防止プログラムを実施できる援助者を増やし、国内各地にプログラムを普及させることが目的である。なお、本研修は、診療報酬における「依存症集団療法」算定における施設基準資格者養成研修でもある。

2. 対象者

医療機関、行政機関、司法機関、民間回復施設等で薬物依存症者の援助に従事している者。

3. 研修期間

平成 30 年 11 月 19 日（月）から平成 30 年 11 月 21 日（水）まで

4. 研修課題

薬物依存症者の臨床的特徴と治療に関するエビデンスを理解し、直面化を避けた動機付け面接の重要性を理解し、薬物依存症に対する集団認知行動療法の実践の実際を学ぶとともに、家族支援への理解を深める。なお、当研修と当センター精神保健研究所薬物依存研究部主催による「薬物依存臨床医師・看護等研修」の両方を終了した者に対しては、薬物依存研究部より、「薬物依存専門課程修了認定書」を授与する。

5. 課程内容

	(時間)
薬物乱用の実態と乱用・依存・中毒概念の理解	(1.0)
薬物依存症患者への対応の基礎	(1.0)
SMARPP の理念と意義	(1.5)
SMARPP の実際	(1.5)
薬物依存症からの回復のための社会資源	(1.0)
薬物依存臨床における司法的問題	(1.0)
ビデオ学習・デモセッション	(3.0)
再乱用防止プログラムのグループワーク	(3.0)
薬物依存症と性的マイノリティおよび HIV 感染	(1.0)
動機付け面接の基礎	(2.0)
依存者家族の支援プログラム CRAFT の基礎	(1.5)
総合討議	(1.0)

合計 18.5 時間

6. 定 員 100 名 (応募者多数の場合は選考)
7. 申込方法・期間 WEB 平成 30 年 9 月 11 日 (火) ～ 10 月 1 日 (月)
8. 受 講 料 18,000 円
9. 会 場 国立精神・神経医療研究センター 教育研修棟ユニバーサルホール

第2回 災害時 PFA と心理対応研修

1. 目的

本研修は、WHO 等の国際機関が開発した「サイコロジカル・ファーストエイド（心理的応急処理：PFA）」に従って、自然災害等の大規模災害時にトラウマに対するこころのケアに対応できる人材を育成するために実施されます。

第一日目には PFA の実技研修を行います。20-30 名程度（予定）のグループに分かれ、ロールプレイ、コミュニケーションスキル訓練、シナリオに基づいた討論などを織り交ぜて、実際の対応能力の向上を目的とします。また、第二日目には、悲嘆、子どもの反応についての理解と対応に関する講義を行うとともに、不安症状を軽減するためのスキルについてもスキル研修を行います。

PFA は災害だけではなく、犯罪被害、事故などのトラウマ被害者に対しても実施できる、汎用性の高いスキルです。この機会を積極的に活用され、災害に備えるとともに日々の臨床にお役に立てて頂ければ幸いです。関係者の皆様の積極的なご参加をお願い申し上げます。

2. 対象者

自然災害、甚大事故、犯罪、テロ等のトラウマ的出来事に際して、実際に被災者、被害者へのこころのケア対応にあたる可能性のある、精神保健医療福祉業務に従事する医師、看護師、保健師、精神保健福祉士、臨床心理技術者、行政職員、教育関係者等。

3. 研修期間

平成 30 年 11 月 28 日（水）から平成 30 年 11 月 29 日（木）まで

※第 1 回災害時 PFA と心理対応研修は、

平成 30 年 5 月 23 日（水）から平成 30 年 5 月 24 日（木）までです。

研修内容はいずれも同一です。

4. 研修主題

「サイコロジカル・ファーストエイド（心理的応急処理：PFA）」に関する基本技能を習得する。また悲嘆、子どもの反応について理解し、不安軽減のためのスキルを習得する。

5. 課程内容	(時間)
PFA の定義と枠組み	(2.0)
PFA の活動原則	(1.5)
PFA ロールプレイ	(1.5)
セルフケアとチームのケア	(1.0)
トラウマと悲嘆反応	(1.0)
子どもの反応	(1.0)
心理教育	(1.5)
リラクゼーション	(1.5)
総合討論	(1.0)
合計	12 時間

6. 定 員

50 名 (応募者多数の場合は選考)

7. 申込方法・期間

WEB (推薦書の送付が必要です)

平成 30 年 9 月 20 日 (木) ~ 10 月 10 日 (水)

8. 受 講 料

12,000 円

9. 会 場

国立精神・神経医療研究センター 教育研修棟多目的室または研究所 3 号館セミナールーム